



営農振興課 渉外係  
吉田 典子

\*今月号は私が担当しました。

## 緑肥の利用について

冬野菜の生産が終わり、春夏野菜の準備が始まります。次作の土づくりや減肥に役立つ緑肥の効果や注意点を改めて確認しましょう。

### 【緑肥の種類と選び方】

主作物の栽培時期を考え、緑肥の播種とすき込み時期を決めます。その時期に栽培できる緑肥作物の中から、期待される効果が大きい物を選びます。

### 【すき込み時期】

緑肥作物は、大きくなるまで育てれば良いというわけではなく、種類によって推奨されるすき込み時期が変わるので注意が必要です。一般にイネ科植物は穂がはじめるまで、マメ科は開花初期にはすき

込むようにします。次作で植え痛みが起らない範囲で、なるべく早く栽培を始めた方が養分の溶脱が少なく利用率は高くなります。すき込み適期を過ぎると病害虫の発生源となるので、周辺の圃場の迷惑にならないようにしましょう。

### 【主な緑肥の種類、特徴など】

#### ●ソルガム

**特徴**：耐暑性が高く、越冬はできません。生育が早く、他の緑肥に比べて有機物の生産量が多いのが特徴です。

**緑肥効果**：土壌に残っている窒素を吸収する能力が高く、土壌にすき込むことで回収窒素の再供給が可能です。また、土壌物理性の改善が見込めます。

**栽培時期**：播種5月～8月、5kg/10a。播種後40～60日ですき込む。腐熟期間20～30日。

#### ●エンバク

**特徴**：品種により播種時期や播種量に差があります。

**緑肥効果**：肥効を期待する場合は出穂前にすき込みます。透水性向上、硝酸態窒素の流出抑制が期待できます。品種によっては線虫抑制作用があります。

**栽培期間**：播種3～5月、8～11月、10kg前後/10a。播種後40日程ですき込む。腐熟期間30～40日。

#### ●ヘアリーベッチ

**特徴**：春に急成長します。土壌を覆う力がとても強く、他の雑草の生育を抑制する他感作用もあるので、耕作放棄地や果樹園などでは雑草防止にも利用されています。他感作用が作物の生育に影響しないよう腐熟期間を設けます。

**緑肥効果**：マメ科のため、根に根粒を形成して大気中の窒素を固定します。土壌中で比較的早く分解されるので、窒素肥料の削減が可能です。

**栽培期間**：播種3～4月、9～11月、3～4kg/10a(石灰でpH5.5以上にする)。播種後2～7か月ですき込む。腐熟期間7～30日。

#### ●カラシナ

**特徴**、**緑肥効果**：緑肥効果の他に抗菌作用があります。アブラナ科植物の葉に含まれる辛味成分が分解されることで発生するガスが土壌消毒剤と同様の働きをし、ネギの黒腐菌核病などを抑制することが知られています。辛味成分の含有量がピークになる開花始めに細断、すき込みを行う事が重要です。春播きはチョウ目害虫が発生しやすいので、周囲にブロッコリーやキャベツの作付けがある場合は、秋播きがお勧めです。

**栽培期間**：播種3～4月、10～11月、1kg/10a。播種後60～116

緑肥に期待される主な効果と緑肥作物の種類

緑肥作物の種類	土づくり(物理性)		減肥		減肥(有用微生物)		有害生物の防除		
	有機物の供給	透水性改善	窒素の供給	カリの供給	根粒菌(窒素固定)	菌根菌(リン吸収促進)	土壌病害抑制	有害線虫※	雑草抑制
ソルガム	○	○	○	○		○		○	○
エンバク	○		○	○		○		○	○
ヘアリーベッチ		○	○	○	○	○			○
カラシナ	○		○	○			○		

※品種により効果が異なる。

0日ですき込み。腐熟期間30日程度。  
昨今の化学肥料の価格高騰対策の一つとして、地方の維持や窒素の補給、また品種によっては土壌病害虫の抑制にも役立つ緑肥の紹介を行いました。目的に合う緑肥を選定し、適切に使用することでコストの削減に役立てて下さい。